

令和8年度 豊島区立高松小学校 学校経営方針

～ともに、心昂(たかま)る一年へ～

校長 坂本 貴史

I はじめに:高松小学校が大切にしていること

高松小学校が目指すのは、児童が「地域(ふるさと)を愛し、自分に自信をもてる学校」です。地域の方々とのふれあいの中で笑顔を咲かせ、仲間とともに「地域愛と自信」を育てていく。開校77周年という歴史と伝統を受け継ぎながら、教育者としての使命感を誇りとし、現状維持は退化と捉え、「常に前進する学校」を目指す。

◇今年のテーマは「昂(こう)」

児童も教職員も意欲を高め、向上心をもってワクワクしながらチャレンジする一年にしていく。「昂」のようにニコニコ笑顔があふれ、一人ひとりが主役となって「かがやく」場面を数多く設定する。

◇目指す子どもの姿:スローガンは「チャレンジ たかまつ」

「た・か・ま・つ」の4文字に、私たちの願いを込めている。この内容については今後、コミュニティ・スクールとして、教職員、地域や保護者、そして児童も含めて常にアップデートしていく。

【た】たかましい子ども(体):進んで体を鍛え、心身ともに健康な子ども

【か】輝く子ども(主):夢や希望をもち、自分の人生を自分で切り開いていこうとする「主体的な子ども」

【ま】学び合う子ども(知):確かな学力を身に付けると共に、自ら課題を見付け、解決しようとする子ども

【つ】伝え合う子ども(徳):豊かな表現力と相手を思いやる心を持ち、
互いのよさを認め合い、尊重し合って生きていく子ども

II 令和8年度の重点ポイント

1. 主体的・対話的で深い学び 「自分の人生の主人公」を育てる(心の教育と支援)

◇学校の教育活動全体を通して、児童の主体性を大切に学習や取組を進める。■「主体的・対話的で深い学び」の実現は、これからの教育活動の一丁目一番地。試行錯誤している段階から成果を求められる段階へ移行しつつある。本校でも、校内研究を通して取り組んでいく。校内研究の様子は、今年度から保護者・地域の皆様に順次、紹介や公開をしていく。

◇児童一人一人が「自分の心の運転手は自分自身」である意識をもつよう支援する。■自分の言動は自分自身で選んでいるという責任感と自覚を促し、一人一人の人格を尊重しながら対話を重ね、より良い方向へ導いていく。

◇「小さいいいね」の積み重ね:児童の具体的な行動を認め、自己肯定感を高める。自分でコントロールできることに集中し、前向きに取り組む力を育てる。■今年度も様々な機会に児童の頑張りやよさを、褒め・認め・励ましていく。教員1人が1日10「いいね」すれば26人で260「いいね」40人で400「いいね」が校内を飛び交う。

◇基礎的・基本的な学習内容も引き続き、確実な定着に向けて取り組んでいく。

◇SOSをしっかり受け止める:「アイチェック」や「にこにこ相談日」を通じて、児童の小さな声も丁寧にすくい上げる。相談体制の充実と相談窓口の周知を繰り返し行う。

2. 「チーム高松」で全ての子どもを育てる(組織的な体制)

◇「一人の担任が自分の学級だけを見る」というこれまでの方法から、「学年や学校全体の教職員で、全ての児童を育てる」体制へシフトする。具体的には、学級担任制から学級担当制、学年担当制へと段階的に移行していく。

- ◇教科担任制・少人数指導：教員の専門性を活かした分かりやすい授業や、全学年での算数科の少人数指導を通して、確かな学力を定着させる。
- ◇東京都教科担任制加配教員の配置を受け、高学年は教科担任制へ取り組んでいき、中学年も段階的に進めていく。■教科担任制のメリットは、何よりも教員の専門性を活かした授業を実施できること。PDCAサイクルを短期で回すことができ、教員自身の指導力向上にもつながる。また、複数の教員が児童の指導に当たるため、児童のよさを多面的に捉えることができる。一方、デメリットとして、一人に教員に慣れた児童も、多くの教員と接することになるため、多くの大人になかなか馴染みにくい児童が予想される。それぞれのメリット・デメリットを意識しながら、よりよい在り方を模索していく。
- ◇ICTの活用と協働的な学び：タブレット等を活用した「個別最適な学び」と、お互いの意見を交わす「協働的な学び」を組み合わせ、これからの時代に必要な力を育てる。
- ◇異学年交流（ハッピーグループ）：上級生はリーダーシップと大きな思いやりを、下級生は協力する態度を学び合う様々な機会を実現できるよう、創意工夫していく。
- ◇インクルーシブ教育の推進：特別な支援を要する児童への手立ては、全ての児童にも有効であることを認識し、インクルーシブ教育の充実を図る。
- ◇「誰一人取り残さない」支援：発達のペースに応じたスモールステップでの支援や、教室環境の工夫（ユニバーサルデザイン）を行う。
- ◇いじめや不登校の未然防止・早期対応のため、新たな支援ルーム「たかつむりルーム（SSR）」の整備を進める。■スキップサードの部屋が児童の在校時間帯は支援ルームとなる。コーディネーターは保健室の養護教諭が務める。

3. 地域は大きな教室。地域と歩む学校づくり（地域連携）

- ◇「CS高松（学校運営協議会）」が設置されます。地域コーディネーターを中心に、保護者や地域の力を借り、社会に開かれた教育活動を進める。
- ◇ふるさと高松の学習：町探検、防災授業、としま案内人に学ぶ活動などを通じて、地域社会と関わり、児童を「高松小の小さな外交官」として育てる。
- ◇透明性の高い学校づくり：学校公開や授業研究などは原則公開し、地域や保護者の「社会の視点」を活かした学校運営や安全点検を実施する。
- ◇幼・保・中とのスムーズな連携：近隣の幼稚園・保育園との交流会や、中学校への円滑な進学に向けた共通プログラム（あいさつ運動やキャリア教育）を実施する。

4. 安全・安心な環境と、教職員が笑顔で働ける学校へ

- ◇子どもたちにとって学校が「最高に安心できる居場所」であるために、環境を整える。
- ◇徹底した危機管理：「自分の命は自分で守る」実践的な避難訓練、死角のない環境整備に努める。
- ◇デジタル連絡網の活用：保護者の皆様への連絡や配布物は、原則「すぐーる」アプリで迅速かつ確実に届ける。デジタルの利点を生かして、リンクを付けて情報を充実させる。
- ◇教職員の働き方改革：教職員が心身ともに健康で、誇りとやりがいをもって子どもたちと向き合えるよう、業務の効率化や休暇の計画的取得、休憩時間の確実な確保を進める。

Ⅲ 校長からのメッセージ

- ◇最終責任者として「全ての事案の責任は自分」を肝に銘じ、学校経営に全力投球する。

◇「自分自身が変わる」という姿勢（インサイドアウト）を貫くことです。児童には溢れる愛情を、教職員には信頼と感謝をもち、皆様と共に歩んでいく。「校長の限界が学校の限界」にならないよう、保護者や地域との連携を今まで以上に深めていく。

- ◇月に数回、「校長室ふれあいカフェ」（A）と「校長個別相談日」（B）を設け、保護者や地域との交流の場を設定する。